

鹿野地区 地域づくり懇談会 開催概要

- 1 日時 平成30年10月29日（月）19：00～20：10
- 2 場所 鹿野地区公民館
- 3 出席者 地元出席者 11名
市出席者 3名（深澤市長、安本地域振興局長、徳岡鹿野町総合支所長）



4 テーマ 地域共生社会のまちづくり（世代間交流の促進）について

5 概要

（地元あいさつ）

現在、鹿野町全体では高齢化率が36%という状況である。社会福祉協議会の支援をいただきながらふれあいサロンを開催しているが、後継者不足等で年々開催する集落が減ってきている。単身高齢者の世帯は参加されない方もおられる。

10年後には、地区の2人に1人が高齢者になることが予想される現状では、日々の生活の中でコミュニティを築き上げていくことが重要ではないだろうか。今後、安心して暮らせるまちづくりのためにも、地域と高齢者がつながりながら生活していくということが最重要ではないかということで、地域共生社会のまちづくりを本日のテーマとしている。

（市長あいさつ）

今は、日本全体で少子高齢化、人口減少が進んでおり、大変厳しい状況である。そういった中で、地域での確かなつながりを大切に、お互いに支え合って地域づくりを進めていくことが、行政が目指すべき究極のところではないかと思っている。

<テーマの背景>

現在、月1回「ふれあいサロン」（各集落の集会所で高齢者を対象にした食事会：社会福祉協議会事業）を開催しているが、独居世帯や老々世帯のコミュニティが確立されていないなど、昔に比べて人のつながりが極端に希薄化する中、誰もが安心して暮らせる環境をつくるため、世代を問わず気軽に集い、交流できる場所を作りたいとの声が上がっている。

<地域の取組>

誰でも集える拠点づくりの立ち上げを検討したいと考えており、その中で、現在の「ふれあいサロン」のような集いを発展させて、空き家などを利用し、誰でも気軽に集まってお茶を飲みながら交流できる場所を作りたいとの声が上がっている。

（地域で出ている意見）

- ・ 空き家を利用した誰でも簡単に集まってお茶を飲みながら交流できる場所を検討したい。
- ・ いつでも誰でも気軽に集える場所がつかれるようにする。
- ・ 10年後の将来を見据えたコミュニティづくりを進めたい。
- ・ 今動ける若い人たちが、安心して暮らせるような助け合い、支え合いの仕組みづくりを進める。
- ・ 観光客も気軽に立ち寄れる場所にしたい。
- ・ ゆくゆくは、集まった人でオープンカフェのような運営ができるようになれば、高齢者の生きがいにもつながる。
- ・ 安心して暮らせるような支え合いの仕組みづくりを進めるために、持続可能な地域の活性化を図るためのワークショップを行う。
- ・ 計画を作成し、計画の見直しを図りながら実践していく。PDCAを進める。

（地元）

地区の人権教育推進協議会の中では認知症の問題がよく取り上げられている。そこでは、みんなの中に出て話をすることが認知症の予防策として良いと言われている。このことを踏まえ、鹿野地区では、住民の誰もがいつでも集って話ができるような拠点づくりを立ち上げたいと考えている。今あるふれあいサロンをもう少し変化させ、住民のみんなが参加できるようにしたい。あわせて、空き家を活用した拠点づくりも考えている。

この拠点づくりを通して、若い方や、家の中に閉じこもって誰とも話をしない高齢者にも外に出ていただきたいと考えている。今から集える習慣をつくって、10年後や20年後にもつながっていくようなコミュニティづくりをしたいと考えている。人が集うということによって、何かが生まれ、始まっていけば最高な形ではないかと思っている。まちづくり協議会

の会員の内、70代前後の方が集まって鹿野DJ生産組合という組織を作り、4年ほど前から鹿野に名産を作るために取り組んでいる。こういった活動にも広がっていけば、まちづくりにもつながるかと思っている。最近、鹿野の街中では観光客が増えてきているので、そういった観光客との交流も目的とした拠点にしたい。

(地元)

今、こども食堂が増えているが、その大人版だと思う。拠点の場所についてだが、今増えている空き家を活用しようとする時間やコストがかかってしまう。鹿野には「童里夢」や「しかの心」という、人が集まるいい場所があるので、こういった場所を活用しながら、早く実行したらいいと思う。まだ具体的な活動予定は立っていないと思うが、例えば童里夢やしかの心で日を決めて活動し、サービスランチ等を始め、人が集まってくればいろんなメリットが出てくると思う。

運営は童里夢やしかの心である程度やっていただき、企画や内容は地域づくりのスタッフで考えていけばいいと思っている。鹿野には映画上映を行っている団体もあるので、童里夢で鑑賞することもできるのではないかな。

最終的には空き家や、空いた公共施設などといった場所を活用し、加工や販売ができるようになればと考えている。資金の問題については、補助を検討していただけたらと思う。

(地元)

まちづくり協議会が持っている施設を使うことについて異存はないが、結局、誰が担うのかということだと思う。

私の店では自由に座れる椅子を置いている。独居のおばあさんたちが来て、買い物のついでにその椅子に座り、店員や他のお客さんと話したりしている。そのように、気軽に行って話ができる場所が歩いていける範囲にあればいいことだと思っている。ただ、そう考えると1か所では周りの人だけしかメリットがないので、複数あればいいと思う。

(市長)

童里夢は鳥取市が事業として進め、今は株式会社ふるさと鹿野が指定管理者として管理している。指定管理者制度は、指定管理者がノウハウを生かしながら自由に管理していくという趣旨である。童里夢と相談していろんな使い方をしてもらえたらと思う。また、観光客や地元の皆さんが集われて活用されるということはとてもいいことだと思う。

今、鳥取西道路の工事が急ピッチで進んでいる。国土交通省からは来年の夏までには鳥取道とつながると言われているが、実際にはもう少し早く供用開始になるのではないかなと思っている。これも一つの好機として捉え、鹿野町に多くの方にお越しいただき、地元の方と交流を深めていただくことも素晴らしいと思う。

地域の皆さんが交流サロンとして施設の整備をされる場合には、いろんな補助制度がある。国府でも、NPO法人万葉のふるさと国府創生会が、県のトットリズムという支援制度等を活用して取り組んでおられる。そういった具体的な例も参考にして進めていただければいい

と思う。

(地元)

童里夢は指定管理者との話が詰まらないと難しいということか。

(市長)

難しいというのではなく、いろんな形で活用できるので、童里夢と相談しながら進めていただければと思っている。地元の皆さんがぜひとも活用されたいということであれば、指定管理者の株式会社ふるさと鹿野の皆さんにこちらから話をさせていただいてもいい。地元の団体なので、活用策についていろいろ意見交換等していただければありがたい。

(地元)

場所についてだが、私のところもギャラリーとして開放しており、少しお金をもらってコーヒーを出したりしている。しかし、しっかり責任を持って定期的に関ることが人的になかなか難しい。実際にローテーションして運営していけるか、運営するための組織をどのようにして作っていくかが課題だと思う。昔は縁側でお茶を飲み、井戸端会議する場所がいろいろあってうまく回っていたが、そういったものが今はなくなってしまい、ぎくしゃくした時代になっていると思う。

(地元)

退職したときに集まれるところがあったらうれしいが、実際はないのが現実だと思う。私が好きなテレビ番組の中で、海外の小さな村で近所の人が集まって話しているという場面がよく出てくる。鹿野もこういう町になったらうれしいと思っていつも見ている。

(地元)

鹿野の地区では80歳以上の方が約200名おられる。拠点を立ち上げて、人を動員するとなれば、我々だけでは難しいと思う。今は高齢者がなかなか外に出てこない。

私はこの取組みの中で、各集落の代表を動かさないといけないのではと思っている。そうしないと、高齢者が置き去りになって、若い方たちの会になってしまわないかという不安がある。

(地元)

空き家を活用するにしても、組織を作ってやるのは限界があり、続かないと思う。例えば、童里夢をうまく活用し、人を集める方法をまず作る。そして、運営は童里夢が行っていく。内容については童里夢と相談しながら進めていけば、もう少しスムーズに進むのではないだろうか。

(地元)

人が集まれるいいところがあったからといって、普段外に出ていない人が、習慣的にそこに通うかという、非常に難しいのではないかと考えている。ただ、その環境をつくり上げることは必要だと思っており、若い世代がそういう環境で育てば、高齢者になったときでも、外に出ていく習慣ができていないのではないかと考えている。誰でも気軽に立ち寄れる場所が村にいくつかあってもいいと思う。

民生委員からも、そういった場所がほしいと言われることがある。鹿野が先駆けて取り組み、モデル的な町になれば、他の地域にも広がるのではないかと考えている。

(地元)

NPO法人の万葉のふるさと国府創生会は何か財源を得ながら運営しているのか。

(地域振興局長)

万葉のふるさと国府創生会が交流サロンの宮をオープンしたのは去年の秋で、立ち上げ時は県のトトリズムの補助金を活用したようである。コーヒーや商品の販売も行い、今年になって常連客がかなり増えてきており、売り上げから経費が捻出されているのではと考えている。まだ立ち上がったから4年目ぐらいのNPO法人だが、いろいろと助成制度を探して活用されている。ただ、どこかの段階で自前の売り上げ等を財源に切り替えていかれるのではと考えている。

(地域振興課補足)

交流サロンの宮の施設の初期投資には、行政や民間の助成制度を活用されています。運営の財源には、コーヒーや軽食などの売り上げ及び農産物の販売手数料を活用されています。週5日の営業(集客数:約400人/月)を、10人のボランティアで対応されており、人件費の支出はありません。なお、経常的経費に活用できる補助金はありません。

(地元)

先日の日本海新聞の中に、県が倉吉のサロン等を見学された記事があったが、その中でボランティアでは長続きしないのではないかと話があった。民間施設の活用となると、賃借料や光熱水費等を生み出す必要があるため、それをいかに確保していくかが一番の課題だと考えている。鳥取市で新しく助成制度を設けていただければありがたい。

(市長)

助成制度はいろいろあり、トトリズムの他、日本財団から鳥取県全体に支援をいただいている取り組みもある。鳥取市では中山間地域に関係した独自の補助制度等もある。使い勝手が今一つということであれば、皆さんのアイデア等をいただいて新しい制度を作ればいいと思う。

鹿野では世代を問わず集まれるよう先駆けて取り組み、鳥取市では必要な制度を作って支援

することで、持続的な取組みとなるようであれば、新しい制度を新年度等から考えていくこともあるのではないかと思います。

（地元）

ボランティアでは続かない。スタート時点である程度の報酬があれば、やる気になってもらえると思う。例えば200円のコーヒーを出すことでお客さんがもっと来てもらえれば、それも喜びにつながると思う。今のアイデアは、市が維持管理費や人件費をある程度支援してもらえれば前進するものだと思う。

（地元）

お金を取るということは業としてやると、いろいろな規制がかかって大変だと思う。仲間でコーヒーを出して、材料の負担分として200円を支払うということであれば、ハードルはある程度下がると思う。200円であれば、原材料費や光熱費も含めても問題ない金額設定ではないだろうか。

（地元）

万葉のふるさと国府創生会は業としてやっているのではないだろうか。

（地域振興局長）

保健所の届け出の話は少し聞いたことがあるが、詳しいことは分からない。

（地元）

観光客等が来て一緒に話しながらコーヒーを飲み、コーヒー代の200円をもらうとなれば、業になって保健所への届出が必要になると思う。

（市長）

公民館などに集われてコーヒーを飲み、実費相当額を負担し合うよう、ルール決めしている地域はある。なかなかいいアイデアだと思っている。保健所の関係だが、今年度から鳥取市が中核市になったことに伴い保健所も鳥取市の管轄となったので、柔軟にやれる方法がないか確認してみたいと思う。全くの無料では長続きしないと思うので、お互いに実費相当額を負担することをルール化すれば、持続的に運用できるのではないかと思います。

（生活安全課補足）

不特定多数の者に食品（コーヒーを含む）を調理し反復継続して提供する行為は、金額の大小に関わらず原則食品の営業許可が必要になります。

食品を取り扱う事業等を計画される場合は、事前相談を受け付けていますので、お気軽にご相談ください。

(地域振興課補足)

交流サロンの宮では、「食堂」の許可を取っています。

(地元)

実際に取組みが動き出すと、運営主体がどうなるかが問題になると思う。

(地元)

私はサロンのようなものを充実させたほうがいいと思う。私の集落ではサロンを開いてないため、私ら夫婦で送迎しながら、鹿野町総合福祉センターに何人かで行っている。最初は出たがらない人もいたが、だんだんと話を聞いて参加する人が増えてきた。少し認知症である人も参加しているが、周囲からは認知症が治ったようだとの声もあった。やはり人前で話をすることは認知症の予防策になるのではないかと思った。

今は、私ら夫婦で送迎できているが、なかなか大変なので何とか集落でできるようにしようとしている。ただ、集落ごとに異なる事情があると思うので、相互扶助の精神等の意識づくりや組織づくりに取組みやすい制度を作るべきでないかと考えている。

また、遠いところまで高齢者が移動するのも難しいので、地域全体でサロンを充実させることを考えていくべきだと思う。例えば、レクリエーションを指導できる方が定期的に地域を回れるような仕組みができればいいと考えている。10年も経てば鹿野町も、2人に1人は65歳以上となる。今から対策を考えておかないといけないと思う。

(地元)

私の集落では週末にミニサロンをやっていたが、助成金の関係でオープンなものではなかったのもので誰でも参加できるものではなかった。各町内がやっているサロンもそうだったと思う。誰もが少し立ち寄って井戸端会議的にやろうというものとは少し趣旨が違うのではないか。サロンはサロンでやっていくのは非常にいいことだと思う。

拠点づくりを点々とやれば、他の場所にも展開していくように思うが、人の確保をどうするかが問題となってなかなか進まない。

(地元)

日にちや曜日を決めて定期的を開いている状態にしておかないと、井戸端会議が始まらないと思う。例えば、拠点の立ち上げに対して市から管理費や運営費の補助をしていただき、とりあえず定期的を開いている状態を作る。続くかどうかは分からないが、まずそこからかと思う。

(地元)

鹿野ゆめ本陣をオープンしたときに、ボランティアで留守番していただくことを考えた。しかし、その場合は人が来ればはりきって店を開けるが、人が来ないと閉めてしまう。そして、閉まっているときに来た人がもう来なくなってしまうという悪循環になる。しっかり報

酬が支払われれば、決められた時間を守って店を開けると思う。

(地元)

最初の方に童里夢という話もあったが、個人的には敷居が高く、集えるような雰囲気にはなかなかならないと思う。もっと違うところが活用できるといい。

(地元)

核になって回すコーディネーターのような人が必要だと思う。

(地元)

70代になると退職して時間があると思うので、そういった方、言ってみれば若年高齢者に活躍してもらうことで活性化につながると思う。時間のことを考えると若い人は難しいのではないか。

(地元)

例えば、集落単位で何とか月に1回開催し、それで拠点ができ自分のところもしてみようとだんだん広がっていく形がいいかと思っている。

鹿野の名画座というものがあり、古い映画を見ることによって高齢者が集まって来て話をしている。まだ正式な話ではないが、地域の団体がサロンのようなこともやってみたいという話がある。そういった方を巻き込みながら、どういうことができるかを考える必要があると思った。

(地元)

どうしてもお願いしたいことがある。公民館の行事はほとんどが平日になってしまっており、出なくても出られない人がたくさんいると思う。若い方でも出たい人がいると思うので、平日の夜や土日も検討していただきたい。公民館も交流のいい場になると思う。

(地元)

万葉のふるさと国府創生会の成功例や失敗例があれば教えていただきたい。

(市長)

事例があるかどうかより、これから到来する高齢社会に対応していくため、地域での確かなつながりを大切にしながら、皆さんが集われる拠点づくりや、運営方法も含めた先進的な枠組みを作ることができたら素晴らしいと思う。

それぞれ地域の特性を生かした取組みを進めていくということになると思う。万葉のふるさと国府創成会での昨年度からの取り組みも参考にさせていただき、いろいろな考えや意見も取り入れながら進んでいけばいいのではないかと思う。

(市長あいさつ)

行政が目指すところは地域共生社会だと思う。今は人口減少や高齢化が急速に進んでいる。そういった現実にはしっかりと向き合っていくことによって道が開けていくのではないかなと思う。今ある制度の使い勝手が悪く、あまりマッチしないということであれば制度を変えることや、新たな制度を作れば良いと思っている。今日いただいた素晴らしいご意見やアイデア等を市政に反映させていただきたいと思っている。

(鹿野町総合支所長)

私は来年で還暦となる。業務を離れても、将来の地域のコミュニティを深めていくことについて、いろいろ考えてみたいと思っている。本日の地域づくり懇談会をきっかけとして、鹿野地域で何かが動き出せば素晴らしいと思う。